

250327-SIA 評論「気になる NHK の放送百周年番組：東大とのコラボ番組」

日本のラジオ放送は 1925 年 3 月 22 日に始まった。テレビ放送は 1953 年 2 月 1 日開始である。放送開始百年という事で、NHK がいろいろな特別番組を制作報道している。

お祭り気分と番組担当ディレクター？の考えに基づく現代の視点からの報道には少し気になっている。この問題を掘り下げると歴史観、社会思想・哲学も入り混じるので、本日は言及を避ける。

ただ解り易い事例として東大とのタイアップで作成 3 月 22 日報道された事例を取上げ少し私見を述べる。このコラボ番組については東大のホームページにも NHK のホームページにも掲載されている。

以下、そのタイトルも含め NHK ホームページから引用すると以下の通りである。

[シリーズ 日本人と東大 第 1 回 エリートと条件 “花の 28 年組”はなぜ敗北したのか - ETV 特集 - NHK](#)

初回放送日：2025 年 3 月 22 日

エリートは、何のための存在か？東京大学創立 150 年へ、その原点から日本人の歩みをたどる。ライオン宰相・浜口雄幸らを輩出した東大卒「明治 28 年組」。市民社会の理想を共有し、金解禁と軍縮をやり遂げた。しかし、東京駅に銃声が響く。浜口がたおれ、戦時体制に国民を動員したのは同じ東大卒の「革新官僚」たちだった。国を背負うエリートの本質に、現役の東大生の本音も交錯させながら迫る。（NHK・東大／包括連携協定）

その番組中で中心人物として取り上げられているのは濱口雄幸である。愛称「ライオン宰相」としても知られる土佐高知出身の濱口雄幸は国際友好を掲げ金解禁を行い、米英との海軍軍縮を推進した信念の人であった。3 月 22 日の番組とその再放送を昨晚 3 月 26 日にも見て感じた事を簡単に述べる。

第一次世界大戦後欧州の主要国は金解禁、金本位制に復帰した。諸外国からの圧力もあり歩調を合わせ濱口も金解禁・金本位制復帰を断行した。

しかし、彼の金本位制復帰は明らかな誤りであった。その誤りは金本位制そのものに対する当時の政財界、経済学会も含めた認識不足と第一次世界大戦後の世界各国の経済状態を加味した適切な為替レート設定が成されなかった事もあり日本も大恐慌に突入する。欧州諸国の金本位制復帰も失敗する。

本番組中でもこの辺の言及は少し言訳程度にはなされていたが、歴史の教訓も含めた全体から見ると甚だ乏しく、大多数の視聴者を惑わせる内容であったのではと危惧する。

本番組の基調はその後段で「東大卒の岸信介を初めとする昭和初期の革新官僚」と 1895 年卒組との比較で明らかとなる。

図式は「東大の明治 28 年卒業組の教育は教員等も国際色豊かで、片や昭和初期の東大の教育は国際色が薄れ国粹主義的となった」との比較批判の色彩が強い。

政治テロの後遺症による濱口雄幸の死後、政権は移り高橋是清がケインズ理論を描いたような経済政策を実施し、1929 年米国発の世界恐慌に欧米先進国を含め各国が苦しむ中、日本は一早く経済恐慌を脱し経済成長を遂げる。

この辺の経済政策を含めた時代の比較検証でなければ NHK 百年・東大百五十年企画も単なるエリート組織の自慢話か、そういった組織人物に有り勝ちな固定観念の押し売りに過ぎないとの印象を受けるので参考に一筆纏めた次第。上記番組をご覧になった方、いろいろな見解があると思いますので是非一報下さい。250327-SIA 評論「気になる NHK の放送百周年番組：東大とのコラボ番組」佐々木筆